

第2次新宮市総合計画 説明会 会議録

日 時：平成30年1月9日（火） 19時00分～20時35分

場 所：熊野川総合開発センター

参加者：8名

市当局：20名

市民生活部長、健康福祉部長、建設農林部長、熊野川行政局長、医療センター事務長、
水道事業所長、消防長、総務部参事、教育部次長、企画調整課長 ほか

次 第

1. 開 会
2. 資料説明（第2次新宮市総合計画について）
3. 意見交換
4. 閉 会

意 見 交 換

A氏

速玉大社はもとより、小口地区でも古道歩きの外国人観光客が多く、観光客用のトイレの整備が必要。また、相須地区の避難所には洋式のトイレが整備されていない。このような身近なものから1つ1つ整備していくことが重要である。ある町では、若者の力を取り入れたことで町の状況が変わってきたとテレビで放送されていた。そういうことを調べ、研究していくべき。この総合計画の策定には、どれだけの費用をかけているのか。

企画調整課長

昨年度はアンケート調査の実施に約150万円。今年度で実施している策定作業は、コンサルには委託せず自前で作成しているため費用はかかっていない。今後の冊子作成費用として300万円程度を予定している。

B氏

防災・医療・教育・スポーツなどは今までもやってきたことだが、実際、新宮高校から良い大学にどれだけ進学できたのか。甲子園に行っていた時代の新宮高校の方が、素晴らしい人間が育ったのではないかと。熊野川町は何をめざすのか。神丸の区画整備や小口への道の整備、鳥獣被害対策など、考えてくれているのか。今後の新宮市については、地元の人を巻き込んで考えていかなければならない。本日は参加者が少なく、若者の参加も無くて残念。もっと多くの町民が参加して熊野川町の発展のために話ができればよかった。熊野川町が発展すれば、新宮市もおのずと発展できるはず。

C氏

- ①説明会の開催は、なぜ今日なのか。熊野川町は高齢者が多いので、もっと暖かい時期の昼間に開催できなかったのか。
- ②熊野川は、宮井大橋までを国が、その上流は県が管理していると聞いている。砂利が溜まり、大雨が降ればすぐに増水して道路が冠水する。砂利を取る予定はあるのか。
- ③野生鳥獣害についてどのような対策を行う予定か。
- ④町内会に対して、どのような活動支援をしてくれるのか。

企画調整課長

- ①審議会で「基本計画(案)」を審議し、市民説明会を開催して最終修正を行い、年度末には計画を完成させる予定。審議会での概ねの審議終了が12月であったため、説明会の開催が1月となった。昼間に開催すると仕事をされている方の参加が難しくなるため、夜間の開催とさせていただいた。
- ②熊野川は、河口から5kmまでが国の直轄区間であり、それより上流は和歌山県及び三重県となる。宮井の合流点までを国の直轄区間にしてほしいということは、市も、奈良・三重・和歌山の14市町村で組織する熊野川流域対策連合会からも国へ要望している。堆積砂利は、国の管理区間は国が、県の管理区間は県が採取している。三重県・和歌山県では、整備計画に基づき計画的に砂利を採取していく予定であると聞いている。

C氏

熊野川の支流についてはどうか。

建設農林部長

赤木川も県の管轄であり、河床を下げるための浚渫をお願いしている。今年度は赤木で実施していただいた。

- ③野生鳥獣害への対策として、電気柵・網・捕獲檻に対する補助金を交付している。また、猟友会に捕獲を依頼し、捕獲手数料として多くの費用も拠出する中で、かなりの実績を出している。いかに効率的に捕獲していくかが今後の課題であり、その方法について検討中である。

市民生活部長

- ④町内会活動については、人口減少と高齢化に伴い参加者が少なく、組織がうまく機能しない町内会が増えてきている。町内会の活動が円滑に進むための適切な支援方法については、今後、話を伺いながら考えていくことになるが、まずは、町内会活動を維持していける状況にしていきたいと考えている。

C氏

熊野川町で農業をしている人は10年後にはほとんどいなくなる。後継者をどうしていくかを今後5年くらいで考える必要がある。農業をしてお金になる方法を考えてほしい。

建設農林部長

農地法や農業委員会の法改正が行われ、農業委員会も農地利用の最適化に向けて遊休農地を増やさないように、農業をしていただける方を探していく施策に大きく変わってきている。新しい農業委員会が 12 月に立ち上がり、農業最適化推進委員を中心に農業のマッチングを行いながら、農地を農地として活用していくために模索中である。

D氏

本宮町で採取した熊野川の砂利を、熊野川町内の私有地に運んでいる。熊野川の流域内で砂利を移動させても意味がないのではないか。

敷屋で何かが発生した場合、ヘリはどこに降りるのか。

消防長

宮井のヘリポートか河原となる。以前、敷屋小学校で検討していたが、適地を見つけることができなかった。

D氏

敷屋小学校以外に場所はないはず。テニスコートを無くせば可能なのか。

消防長

障害物がなければ可能かと思うが、広さや高さも含めて検討しなければならない。

D氏

防災行政無線で「熊野川町全域に避難勧告が出た」と放送されることがあるが、熊野川町以外のどこに避難すれば良いのか。これでは、誰も避難しないと思う。

総務部参事

熊野川町以外に避難してほしいという意味ではなく、避難勧告に続き放送している避難所へ避難してほしいという意味。

D氏

土砂災害警戒区域内にある避難所はないか。

総務部参事

土砂災害警戒区域内の避難所は、警戒区域の指定状況により、順次、見直ししている。

D氏

ダムからの放流時刻と放流量を放送してくれているが、この情報は、ダムから F A X で本宮町・熊野川町・新宮市へと連絡が入るのか。

熊野川行政局長

熊野川町には、F A X で入る場合も電話で入る場合もある。

D氏

電話が話し中の場合や F A X に気づかない場合はどうするのか。最近は少し早くなったが、放流開始時刻から 50 分くらい経った後で放送されていたこともあったが。

熊野川行政局長

ダムの放流 2,000 トンから放送しており、3,000 トン、4,000 トンと増えるにつれて、少しでも早く情報を放送するよう心掛けています。

D氏

小森ダムと二津野ダムからは別々に連絡が来るのか。

熊野川行政局長

別々に来る場合もあるし、放流量が増えてくると同時に来る場合もあるが、特に北山川水系の嶋津地区からは別々に放送してほしいと要望があり、そのようにしている。

C氏

高齢者には、防災行政無線の放送内容が理解し難く、防災メールも使えないことから、西敷屋地区では自主防災組織を立ち上げ、自主避難の情報が入れば会長から班長へ、班長から各家庭へ連絡している。西敷屋の避難所までは落石の心配がある山道を 1 k m 近く登っていかねばならず、自主避難をしていただくにも心配である。また、行政無線は避難所に設置しているため、地区の中から行政と連絡が取れる方法がなく、避難所に行けない状況になった場合は孤立してしまう。台風 12 号災害の際も携帯電話が使えず孤立した経緯もあるので、地区外との連絡方法は何かないか。

総務部参事

避難所には無線機を設置しているため行政局と交信することが可能だが、避難所に行けずに孤立した場合の通信手段は携帯電話しかなく、携帯電話が使えない場合は衛星電話しかない。衛星電話の整備費用は 20 万円ほどかかるほか、毎月の費用も発生する。

C氏

防災行政無線は、自主避難のお知らせの後に新宮全域の避難所を放送している。高齢者には放送の内容が理解しにくいので、もっと簡素化できないか。

総務部参事

以前の防災行政無線は熊野川町と新宮市を別々に放送できたが、現在は統合したため、できなくなった。自主防災組織の対応で協力願いたい。

E氏

- ①熊野川の活性化はなかなか難しいと思うが、熊野川町の中でも I ターンの方はとても元気がある。このような方へのバックアップについては、どのように考えているか。
- ②熊野地域は奈良・三重・和歌山と 3 つに行政に分かれている。総合計画の策定にあたり、熊野市や十津川村、下北山なども含め、行政が一緒になってできることがないか考えることができれば良いと思う。

企画調整課長

- ①現時点で I ターンの方への具体的な支援はないが、国の施策である地域おこし協力隊と

しては1名活動していただいている。定住推進の一環とした移住対策を考えていかなければならないが、熊野川町だけでなく旧市内についても、またIターンだけでなくUターンとのバランスも考えながら、市からの情報提供や空き家の活用などもあわせて検討していかなければならないと思っている。

②広域連携については、道路や河川などの要望においても、広域市町村が連携して行うことは効果的である。また現在、県が中心となり、定住自立圏構想として様々な分野で広域連携できるものがないか模索しているところでもある。広域連携は、今後10年間は今以上に必要になってくると考えている。

A氏

河川の砂利採集に伴い川の流れが激しくなると護岸が削られてしまうので、そういうことも併せて県へ要望していただきたい。

有害鳥獣の駆除に対する補正予算を組んだとのことだが、もう既に予算は尽きている。

総合計画が目指すまちにしていくなめには、もっと市民の声を聴いてほしい。

最後に、市議会は全会一致でこの案を可決したのか。

企画調整課長

「基本構想」については特に異論なく、9月議会で全員賛成という形で可決いただいた。

A氏

5年・10年の長期スパンの中、職員は退職後もこのことを深く胸に刻んで、まちのために尽くしてほしい。そうすれば必ず新宮市は発展する。

(以 上)